



### DATA：産婦人科

- 日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設 ●日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度暫定研修施設 ●日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設 ●生殖補助医療実施医療施設 ●日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設 ●日本婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構登録施設 ●日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医制度認定研修施設
- 主な対象疾患 ●産科：正常妊娠、切迫流産、切迫早産など ●婦人科：婦人科良性腫瘍・悪性腫瘍・月経関連疾患・女性医療関連（PMS・更年期障害・心身症など）など ●リプロダクションセンター：不妊症一般（人工授精、体外受精・胚移植）



◀診療科HP

## 産婦人科分野を広く、深く

当科は現在、所属医師8名、研修医2名の10人体制で診療を行っています。所属医師全員が日本産科婦人科学会の専門医であり、それに加え日本婦人科腫瘍学会や日本臨床細胞学会、日本女性医学学会などの認定医、専門医、指導医を併せ持つなど、それぞれの医師がその専門性に深い知識を持つ診療科です。産婦人科の分野には、周産期、生殖・内分泌、婦人科腫瘍、そして女性医学と4つの分野がありますが、いずれの分野においても専門医または暫定指導医の資格を持つ医師がいることによって、特定の分野に偏ることなく、広くかつ深い診療を行うことができるのです。

産科は「安全な分娩」に最大限努めるとともに、大学附属病院という制約のなかでも、できる限り快適に過ごして頂けるようアメニティにも配慮しています。

リプロダクションセンターは、日本で2例目の体外受精・胚移植（IVF-ET）の成功、日本最初の凍結受精

## 様々な専門的見地から女性の一生を見守る

卵による妊娠・分娩の成功など、生殖医療の先端の診療を行っています。さらに現在は、顕微授精の次の治療として、精密精子調整や人工卵管の研究に取り組んでいます。これは、DNAに傷のない精子を選別するとともに、卵管を模した狭い空間のなかに卵子と精子を封入することで体内環境を再現し、さらに少ない精子でも体外受精を可能とする新しい技術です。

婦人科では、広く月経異常、内分泌疾患、良性腫瘍、悪性腫瘍などへの対応を行っています。腫瘍に対しては腹腔鏡手術を中心に患者さんに負担の少ない治療を目指しています。

### 更年期障害の診断と治療を行う 「秋桜外来」

近年、産婦人科の一分野として、女性の一生を女性ホルモンの変化を中心に診ていく女性医学が注目を集めています。当科は以前よりこの分野のトップランナーとして活躍してきました。

女性医学は月経前症候群（PMS）やいわゆる心身症、更年期障害など多くの疾患を対象とし、ホルモン剤を含めて様々な治療法で愁訴に対応します。

なかでも、よく知られているのが更年期障害ではないでしょうか。その症状として、欧米ではホットフラッシュが注目されますが、日本では肩こりや疲労感などが主訴として多くみられます。また、不眠や抑うつなど精神的症状が多いことも我々は以前から報告してきました。しかし、更年期障害は卑近な言葉だけに誤解も少なくありません。実際、更年期障害の症状は300以上あるともいわれており、「この症状があるから更年期障害」とはいえません。更年期障害を訴える患者さんの4割はうつであるといわれ、また、甲状腺機能異常や貧血、メニエール病などとも



# 複合的な要因をひとつずつ解明する

似たような症状を呈するので、ホルモンの知識のみならず、広く女性の心身を知っている必要があります。

また、更年期とは閉経前5年、閉経後5年の計10年間とされています。症状が閉経後5年以内に出現していれば更年期障害を推察しやすいですが、閉経前ではその判定は難しく、ほかの疾患であるにもかかわらず更年期障害と診断され、適切な治療を受けることができていない患者さんも少なくないと思われます。逆に「所詮、更年期障害だから」として、見過ごされている症例もあるようです。そのような患者さんのために、いわゆる更年期外来、当科では秋にも桜を咲かせようという気持ちを込めて「秋桜<sup>コスモス</sup>外来」と称する外来を開設しています。更年期障害の疑い症例を含め、少しでも判断に迷う症例があればぜひ当科にご紹介ください。問診・検査などによって更年期障害かどうかを判断したうえで加療、そうでなければ該当する適切な診療科と共同で治療にあたります。

治療法としては、ホルモン補充療法や漢方療法などが知られていますが、このほかにも向精神薬や大豆イソフラボンの代謝物であるエクオールのサプリメントも効果があります。当科では、患者さんの状態に応じてこれらの治療法から選択しています。

## 産婦人科は、女性の未来を診る

閉経に伴うエストロゲン変化以外にも様々な原因でホルモンレベルは変化し、体調不良を引き起こします。例えば、良性腫瘍であっても手術で両側卵巣を摘出した場合やがん放射線治療を受けた場合などは外科的閉経と呼ばれ、この場合にもエストロゲンレベルが低下し、卵巣欠落症状と呼ばれる更年期障害様の症状が出現することがあります。「仕方がない」と諦めずにぜひ当科にご紹介ください。

また、若いときの病気がその後の人生に影響することもあります。例えば、妊娠時に妊娠高血圧症候群を発症した患者さんは、出産後に血圧が正常値に戻ったとしても、その後の生涯で高血圧になるリスクが3倍になることが知られています。妊娠糖尿病の場合も同様に、いったん産後正

常に戻ったとしても、ならなかった人に比べて7.5倍の頻度で本当の糖尿病になるというデータがあります。月経前症候群があった女性は更年期障害が重いようです。このように女性の疾患は一生という流れのなかで診断し、対応することが重要です。従来は、治療が終了した時点でその後をフォローしないことが多かったのですが、当科では治療後もその患者さんの体に何が起こるのか、何が必要なのかを判断しながら、フォローアップできる体制があります。それは、女性であるという患者さんの人生を、一生見守っていく体制です。

「女性医学」という視点を通して、一人ひとりの女性の未来を診る診療科、それが私たち、東京歯科大学市川総合病院産婦人科です。

**Dr's profile**



**Kiyoshi Takamatsu**  
**高松 潔** 医師



**出身・ゆかりの地**  
石川県金沢市です

**趣味**  
最近は…スマホゲームです

**医師になったきっかけ**  
祖父(眼科)、父(外科)を見て育ち、人を救う仕事の尊さに憧れました

**スポーツ歴**  
中学生から大学生までサッカー部でした

**座右の銘**  
「なんくるないさ～(なんとかなるさ～)」  
自分にも、患者さんにも

### 医療機関の先生方へ

市川総合病院 診療情報提供書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

**患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539(直通)**

開室時間 月曜日～金曜日:午前9時～午後5時 土曜日:午前9時～午後1時(第2土曜日は休診日)